

ふりがな 氏 名		いなはら みなえ 稲原 美苗			
職 名	教授	所 属 講 座	人間発達環境学研究科 人間発達専攻人間発達講座	専任・兼任 の別	専任
略 歴					
学 歴	年 月	事 項			
	1991年 3月	三重県立名張西高等学校 卒業			
	1991年 4月	フィリップス大学日本校リベラルアーツ学科(準学士課程) 入学			
	1993年 3月	フィリップス大学日本校リベラルアーツ学科(準学士課程) 卒業			
	1993年 5月	オーストラリア国立ニューカッスル大学附属英語学校 入学			
	1993年11月	オーストラリア国立ニューカッスル大学附属英語学校 卒業			
	1994年 2月	オーストラリア国立ニューカッスル大学文学部社会学科 入学			
	1996年12月	オーストラリア国立ニューカッスル大学文学部社会学科 卒業			
	1997年 2月	オーストラリア国立ニューカッスル大学文学部社会学科優等学位課程 入学			
	1997年12月	オーストラリア国立ニューカッスル大学文学部社会学科優等学位課程 卒業			
	1998年 4月	オーストラリア国立ニューカッスル大学大学院社会学研究科修士課程 入学			
	1999年 2月	オーストラリア国立ニューカッスル大学大学院社会学研究科修士課程 修了			
	1999年 2月	オーストラリア国立ニューカッスル大学大学院社会学研究科博士課程 進学			
	2003年 7月	オーストラリア国立ニューカッスル大学大学院社会学研究科博士課程 単位取得退学			
	2004年 2月	英国国立ハル大学大学院哲学研究科博士課程 編入学			
	2007年 7月	英国国立ハル大学大学院哲学研究科博士課程 修了			
職 歴	年 月	事 項			
	2000年 2月	オーストラリア国立ニューカッスル大学文学部社会学科 チューター(～2001年12月)			
	2003年 4月	学校法人堀越学園高崎芸術短期大学美術科 専任助手(～2004年3月)			
	2007年 5月	英国国立ハル大学大学院哲学研究科 名誉研究員(～2013年3月)			
	2010年11月	スウェーデン国立ウプサラ大学ジェンダー研究センター 客員研究員(～2010年12月)			
	2011年11月	スウェーデン国立ウプサラ大学ジェンダー研究センター 客員研究員(～2011年12月)			
	2012年 4月	立教大学全学共通カリキュラム 兼任講師(～2013年3月)			
	2012年 6月	東京大学大学院総合文化研究科・教養学部附属共生のための国際哲学研究センター(UTCP) 特任研究員(～2013年3月)			
	2013年 4月	大阪大学大学院文学研究科 助教(～2016年3月)			
	2016年 4月	神戸大学大学院人間発達環境学研究科 准教授 (～現在)			
学 位	年 月	事 項			
	2007年 7月	Ph,D (哲学)(英国国立ハル大学)			

著書及び学術論文等目録

【研究活動】

I. 著書

<単著>

1. Abject Love: Undoing the Boundaries of Physical Disability (Minae Inahara) VDM Verlag 2009. 4
179p.
2. 障害と生きることの現象学—脳性まひの身体からみえる
生活世界— (稲原美苗) 平凡社 2026 .5
280p.

<編著・共著>

1. 共生のための障害の哲学: 身体・語り・共同性をめぐって 東京大学大学院総合文化研究科 2013. 10
(UTCP-Uehiro Booklet 2) ・教養学部附属「共生のための国
(石原孝二・稲原美苗 編著) 際哲学研究センター」
「障害とアブジェクション—「受容」と「拒絶」の狭間」
(pp.11-25) (稲原美苗)
“Between Two Worlds: A Phenomenological Critique of
the Medical and Social Models of Disability” (Michael
Gillan Peckitt, Minae Inahara and Jonathan Cole)
(pp.139-153)
2. フェミニスト現象学入門—経験から「普通」を問い直す ナカニシヤ出版 2020. 6
(稲原美苗・川崎唯史・中澤瞳・宮原優 編著)
「Column.1. セックス／ジェンダーの区別とフェミニスト現
象学」(pp.45-47) (稲原美苗)
「08 なぜ今、フェミニスト現象学なのか？—展開と挑戦」
(pp.90-100) (稲原美苗)
「13 障害はどのような経験なのか？—生きづらさのフェ
ミニスト現象学」(pp.155-166) (稲原美苗)
3. フェミニスト現象学—経験が響きあう場所へ ナカニシヤ出版 2023. 8
(稲原美苗・川崎唯史・中澤瞳・宮原優 編著)
「第4章 更年期の経験—心身の「揺らぎ」のフェミニ
スト現象学」(pp.69-86) (稲原美苗)
「謝辞」 (編者一同) (pp.312-313)

<分担執筆>

1. Embodied Selves
(Stella Gonzalez Arnal, Gill. Jagger, and Kathleen Lennon eds.)
“The Voice of Pain: The Semiotic and Embodied Subjectivity” (Minae Inahara)
Palgrave Macmillan 2012. 12
pp.180-195

2. 共生のための障害の哲学2 (UTCP Uehiro Booklet 12) (石原孝二・筒井晴香 編著)
「能力・障害のパフォーマティヴィティ：ジュディス・バトラーのジェンダー論から再考するアビリティ」(稲原美苗)
東京大学大学院総合文化研究科 2016. 3
・教養学部附属「共生のための国際哲学研究センター(UTCP)」
pp.29-46

3. Routledge Handbook of Well-Being
(Kathleen T. Galvin ed.)
“Disability and Ambiguities: Technological Support in a Disaster Context” (Minae Inahara)
Routledge 2018. 6
pp.124-132

4. Encountering Pain: Hearing, Seeing, Speaking
(Deborah Padfield and Joanna M. Zakrzewska eds.)
“The Art of Pain and Inter-subjectivity in Frida Kahlo’s Self-portraits” (Minae Inahara)
UCL Press 2021. 2
pp.219-229

5. 共創のためのコラボレーション(UTCP Uehiro Booklet 15 (梶谷真司 編)
「コロナ禍の変化と対話～哲学とデザインの関係性～」(稲原美苗)
東京大学大学院総合文化研究科 2022. 10
・教養学部附属「共生のための国際哲学研究センター(UTCP)」
pp.31-34

6. フィルカル Vol. 8, No. 1 ー分析哲学と文化をつなぐー
特集: 哲学と「セーフアースペース」
(小川泰治・山本和則 編)
「哲学する上でのセーフアースペース ーイギリス留学経験からー」 (稲原美苗)
ミュー 2023. 4
pp.142-160

7. フィルカル Vol. 8 No. 2 ー分析哲学と文化をつなぐー
シリーズ: 哲学とセーフアースペース
(神戸和佳子 編)
「『女性』で『多様』な哲学者たちの往復書簡」
(稲原美苗・坂本美理・竹内彩也花・槇野沙央理)
ミュー 2023. 8
pp.160-190

8. 臨床心理学増刊第16号 臨床心理実践サバイバルガイド (岩壁茂 編)
「ジェンダーとセクシュアリティ」(稲原美苗)
金剛出版 2024. 8
pp.58-63

- | | | |
|--|--------------------|------------------|
| 9. 生涯学習と社会教育の基礎
(津田英二・伊藤真木子・鈴木眞理 編著)
「第5章 ジェンダー平等社会に向けた人々の学び」
(<u>稲原美苗</u>) | 人言洞
pp.8-62 | 2024. 11 |
| 10. マスクを取ってもいいですか？ (法と哲学新書)
(若松良樹 編)
「7. コロナ禍は障害者に何をもたらしたのか ―ニューノーマルについての哲学的考察―」 (<u>稲原美苗</u>) | 信山社
pp.267-314. | 2026. 1 |
| 11. シモーヌ2026年冬号
(青山薫・菊地夏野・げいままき・戸谷知尋 編)
「家族愛に潜むケアの課題―フェミニズムと現象学の交差点から―」 (<u>稲原美苗</u>) | サッフオー
pp.21-27 | 2026. 2 |
| 12. フェミニズムを学ぶ人のために
(申琪榮・青山薫 編)
「第6章 フェミニスト障害学」 (<u>稲原美苗</u>) | 世界思想社
pp.84-97 | 2026. 4 |
| 13. 実践・哲学対話入門―地域と社会への向き合い方, 考え方
(河野哲也・得居千照 編)
「大学を拠点とした地域創生と哲学対話――神戸大学附属特別支援学校における『お母さんたちの哲学カフェ』の現場から」 | 昭和堂 | 2026. 11
刊行予定 |

II. 学術論文

<査読付論文>

- | | | |
|---|---|----------|
| 1. Desire to Speak: A Sociological Perspective
(<u>Minae Inahara</u> and Benise Mathisen) | Acquiring Knowledge in Speech
Language Pathology Vol.3
pp.120-123 | 2001. 11 |
| 2. This Body Which is Not One: The Body, Femininity,
and Disability
(<u>Minae Inahara</u>) | Body & Society Vol.15
pp.47-62 | 2009. 2 |
| 3. 痛みの現象学―身体化された語り―
(<u>稲原美苗</u>) | メルロ＝ポンティ研究 第10号
pp.41-61 | 2012. 11 |
| 4. Rejected Voice: Towards Inter-subjectivity in Speech
Language Pathology
(<u>Minae Inahara</u>) | Disability & Society Vol.28, No.1
pp.41-53 | 2013. 1 |

- | | | |
|--|---|----------|
| 5. The Sound of Pain: Embodied Subjectivity and Onomatopoeic Expressions in Japanese
(<u>Minae Inahara</u>) | 臨床哲学 Vol.15, No.1
pp.55-69 | 2013. 11 |
| 6. The Disabled Body, the Able-bodied Form: A Feminist Exploration of Dialogue between Beauvoir and Fanon
(<u>Minae Inahara</u>) | 待兼山論叢 第47号 哲学篇
pp.1-17 | 2013. 12 |
| 7. 障害者歯科医療における障害のある子どもをもつ親への支援—学際的研究からみえる現象—
(村上旬平・ <u>稲原美苗</u> ・竹中菜苗・青木健太・新家一輝・松川綾子・有田憲司・秋山茂久) | 障害者歯科 第38巻 第1号
pp.16-23 | 2017. 2 |
| 8. First Person Accounts of Cerebral Palsy: Adding Phenomenological to Medical and Social Models of Chronic Conditions
(Jonathan Cole, <u>Minae Inahara</u> and Michael Gillan Peckitt) | SM Journal of Neurology and Neuroscience Vol.3., No.1
1016s1 | 2017. 12 |
| 9. 当事者とともに:現象学的質的研究の可能性を考える
(<u>稲原美苗</u>) | 現象学と社会科学 第1号
pp.31-34 | 2018. 5 |
| 10. 大学院生が企画運営する哲学カフェの社会教育学的実践 ～地域コミュニティでの対話の場作り～
(<u>稲原美苗</u> ・藤原雪・山川哲) | 思考と対話 第2号
pp.88-94 | 2020. 7 |
| 11. 大学院生のための学際的探究コミュニティの成と対話実践
(<u>稲原美苗</u> ・中川雅道・津田英二) | 思考と対話 第3号
pp.41-47 | 2021. 7 |
| 12. 親の心理的サポートニーズと健康関連 QOL, 育児ストレスの関連 親の心理的サポートを行う障害者歯科医療現場の構築に向けて
(村上旬平・米倉裕希子・新家一輝・竹中菜苗・森崎志麻・ <u>稲原美苗</u> ・高橋綾・阪本敬・鬼頭昭吉・安藤早礎・秋山茂久) | 障害者歯科 第43巻 第1号
pp.17-25 | 2022. 2 |
| 13. コロナ禍でみえてきたもの——ニューノーマルと障害者についての哲学的考察(<u>稲原美苗</u>) | 法と哲学 第8号
pp.107-132 | 2022. 6 |
| 14. 哲学カフェ企画運営から大学生が得た学びの検討 —立場や考え方の異なる他者との対話実践—
(<u>稲原美苗</u> ・三井規裕) | 思考と対話 第4号
pp.68-74 | 2022 .7 |
| 15. 障害者歯科における多職種による親への心理的サポ | 障害者歯科 第44巻 第1号 | 2023 .3 |

- ートプログラムの試み pp.52-61
(村上旬平・米倉裕希子・高橋綾・稲原美苗・新家一輝
・竹中菜苗・森崎志麻・秋山茂久)
16. A Dialogue between the Body Schema and the Body
Image: A Case of Mild Athetoid Cerebral Palsy
(Minae Inahara) Philosophy & Cultural Embodiment, Vol.3, No1, 2023. 3
pp.1-9
17. 「ケアの倫理」と当事者性の重なり—ある障害者の葛藤
からケアと依存のつながりを考える— 倫理学年報 第73巻 2024. 3
(稲原美苗) pp.29-44
- <査読なし論文>**
1. 痛みの表現—身体化された主観性とコミュニケーション
(稲原美苗) 現代思想 8月号 2011. 7
pp. 80-95
2. メタフシカ第45号中岡成文教授退職記念号
(浜渦辰二・稲原美苗 編著) 大阪大学大学院文学研究科哲学 2014. 12
講座
“Between Bodies: Rethinking Physical Disability
through the Concepts of Abjection and Ressentiment”
(pp.25-38) (Minae Inahara) pp.25-38
3. フェミニスト現象学における障害の身体論の展開—
哲学的当事者研究の可能性— 大阪大学大学院文学研究科紀要 2015. 3
(稲原美苗) 第55巻
pp.1-18
4. フェミニスト現象学とその応用 —つながりの「知」への
展開— 理想 第695号 2015. 9
(稲原美苗) pp.120-132
5. 障害とスティグマ：嫌悪感から人間愛へ（排除と共感の
哲学: スティグマをめぐる） 思想 第1118号 2017. 5
(稲原美苗) pp. 42-54
6. Rethinking Feminist Standpoint Theory: The Situated
Knowledge of the Disabled and Tojisha-Kenkyu 2018. 3
(Minae Inahara) ICU Peace Research Institute
Monograph Series #1
pp.23-28
7. つながりの現象学—ケアのコミュニティを考える
(稲原美苗) 東洋学術研究 第63巻 第1号 2024 .5
pp.51-74

Ⅲ. 訳書・作品など

<訳書>

1. 現代思想8月号 特集:痛むカラダー当事者研究最前線 青土社 2011. 7
「痛みと痛み関連の現象のオントロジー(分類体系)に向けて」 pp. 172-180
(稲原美苗・河野哲也／Barry Smith, Werner Ceusters, Louis J. Goldberg and Richard Ohrbach)
2. 障害百科事典 丸善出版 2013. 1
(日本特殊教育学会・前川久男編集／Gary L. Albrecht 原書編集)
「アウグスティヌス」(第Ⅰ分冊) p.12
「アリストテレス」(第Ⅰ分冊) pp.49-50
「クラウディウス, 皇帝」(第Ⅰ分冊) p.400
「説明的正当性理論」(第Ⅲ分冊) pp.1172-1175
「疎外」(第Ⅲ分冊) pp.1197-1199
「ソクラテス」(第Ⅲ分冊) pp.1201-1202
「デイドロ, ドゥニ」(第Ⅲ分冊) p.1278
「ヒポクラテス」(第Ⅲ分冊) pp.1430-1431
「ホメーロス」(第Ⅳ分冊) p.1543
「スエトニウス, 『ローマ皇帝伝』からの抜粋」(第Ⅴ分冊) pp.1945-1947
(稲原美苗)
3. スティル・ライヴズー脊髄損傷と共に生きる人々の物語 法政大学出版会 2013. 10
(河野哲也・松葉祥一 監訳／Jonathan Cole)
「第Ⅷ部注釈」「第18章いじましい部分」 pp.374-414
4. クレイジー・イン・ジャパン[DVD付]: べてるの家の 医学書院 2014. 9
エスノグラフィ (石原孝二・河野哲也監訳／Karen Nakamura)
「付録2」「べてるのルーツ」 (稲原美苗) pp.258-259
5. 現象学年報第30号 協和出版 2014. 11
「精神としてのヨーロッパを越えた世界:超越論的先入見と現象学」 pp.31-47
(赤阪辰太郎・稲原美苗・豊島史彬／Nicholas Smith)

Ⅳ. その他

<事典項目>

1. A-Z Glossary The Continuum Companion to 2009. 8
Feminist Philosophy pp.292-293 Continental Philosophy,
Irigaray pp.305-306 John Mullarkey and Beth Lord
Kristeva pp.309-310 (eds.), London: Continuum

- | | | |
|--|------|-----------------|
| 2. 現象学辞典 (『現象学事典』編集委員会)
担当項目「ボーヴォワール①」,「障害」 | 丸善出版 | 2027. 6
刊行予定 |
|--|------|-----------------|

<報告書>

- | | | |
|--|---|----------|
| 1. 昔の私へのてがみ
大阪大学未来知創造プログラム助成による成果物
(<u>稲原美苗</u> ・青木健太・桂ノ口結衣 編) | 大阪大学文学研究科臨床哲学研 研究室 | 2015. 12 |
| 2. 日本における優生学の亡霊―障害と無性と匿名性の絡み合いを探究する―
(<u>稲原美苗</u>) | 傷つきやすさと有限性の現象学的研究科研費(B) 研究成果報告書 pp.42-52 | 2019. 3 |
| 3. 哲学対話と当事者性
(<u>稲原美苗</u> 編著)
「対話の現象学～自分の経験と考えを自分で語ることの意義～」(<u>稲原美苗</u>) (pp.1-18)
「対話の場にある懸念を解消するファシリテーションの在り方の検討」(三井規裕・ <u>稲原美苗</u>) (pp.103-111) | 2019-23年度科学研究費補助金 基盤研究(B) (課題番号 19H01185)「哲学プラクティスと当事者研究の融合:マイノリティ当事者のための対話と支援の考察」研究成果報告書 | 2024. 3 |

<書評>

- | | | |
|---|--|----------|
| 1. Kristin Zeiler and Lisa Folkmarson Käll, eds. Feminist Phenomenology and Medicine (SUNY Press)
(<u>Minae Inahara</u>) | Newsletter on Feminism and Philosophy Vol.15, No.1
pp.29-31 | 2015. 10 |
| 2. ヤーコ・セイックラ, トム・アーンキル『開かれた対話と未来―今この瞬間に他者を思いやる―』(医学書院)
(池田喬・ <u>稲原美苗</u>) | 思考と対話 第2号
pp.107-108 | 2020. 7 |
| 3. 土屋葉 編著『障害があり女性であること:生活史からみる生きづらさ』(現代書館) (<u>稲原美苗</u>) | ジェンダー研究: お茶の水女子大学ジェンダー研究所年報 (28)
pp.112-113 | 2025. 7 |

<その他>

- | | | |
|--|---------------------------|----------|
| 1. 沈黙を破る空間―スウェーデン・ウプサラ大学のシンポジウムに参加して―
(<u>稲原美苗</u>) | 現代思想 1月号
p.230 | 2011. 12 |
| 2. 「当事者研究」と私の葛藤『浦河べてるの家』訪問記
(<u>稲原美苗</u>) | 臨床哲学 Vol.16
pp.178-184 | 2015. 3 |
| 3. ワークショップ3「男女共同参画」と現象学
(中真生・池田喬・成定洋子・ <u>稲原美苗</u>) | 現象学年報 第31号
pp.81-88 | 2015. 11 |
| 4. 地域支援のあり方を再考する: 支援の間主観性(精神障がいをもつ人たちを地域で支える取り組み(2) 沖縄訪 | 臨床哲学 Vol.17
pp.173-183 | 2016. 3 |

問研修報告) (稲原美苗)

- | | | |
|---|------------------------|----------|
| 5. 男女共同参画・非-常勤研究者支援ワークショップ報告
作者は匿名の主観でありうるか
(河野哲也・檜垣立哉・ <u>稲原美苗</u> ・中真生) | 現象学年報 第33号
pp.43-49 | 2017. 11 |
| 6. 男女共同参画・若手支援ワークショップ報告—家族にお
けるケアと依存—
(<u>稲原美苗</u> ・小西真理子・川崎唯史・中澤瞳) | 現象学年報 第35号
pp.23-29 | 2019. 11 |
| 7. 日本倫理学会第74回大会 共通課題「ケア」報告 特定
質問への回答
(吉村均・鬼頭葉子・ <u>稲原美苗</u>) | 倫理学年報 第73巻
pp.48-56 | 2024. 3 |
| 8. 「わたし」の声を聴き合う対話の場 ～特別支援学校にお
けるお母さんたちとの哲学カフェの実践～
(<u>稲原美苗</u> ・井上太一) | ふくしと教育 第43巻
pp64-69 | 2025. 12 |

V. 学会での口頭発表等(主要なもの10件)

1. Disability and Stigma: Thinking beyond Disgust and Towards Humanity	京都賞記念ワークショップ(思想・芸術部門) 受賞者:マーサ・クレイヴン・ヌスバウム (招待あり)	2016.11
2. Philosophy Café Dialogues as the Phenomenological Foundation for a Feminist Exploration of the Lived World of Mothers Who Have Raised Children with Disabilities	Nordic Society for Phenomenology 15th Annual Conference	2017.6
3. 当事者の声を聴くことから研究へ	日本現象学・社会科学会 第34回大会 (招待あり)	2017.12
4. Expressing Pain through Fine Art: The Power of Dialogue	24th World Congress of Philosophy	2018. 8
5. Visualizing Pain with an Artist: A Phenomenological Study of Embodied Subjectivity in Dialogue	8th PEACE (Phenomenology for East Asian Circle) Conference	2018.12
6. The Ghost of Eugenics in Japan: Exploring the Intersections of Disability, Asexuality, and Anonymity	Association for Asian Studies 2019 Annual Conference	2019. 3
7. 共通課題「ケア」 「ケアの倫理」と当事者性の重なり ―ある障害者の葛藤― ―からケアと依存のつながりを考える―	日本倫理学会 第74回大会 (招待あり)	2023.10
8. 教育講演4 多様な当事者のニーズについて考える～ある障害当事者の経験から～	全国大学保健管理研究集会 第62回大会 (招待あり)	2024. 10
9. メインシンポジウム3「わかり合えない他者と、すこやかに生きる」、 コロナ禍における障害者の「すこやかさ」について臨床哲学的に考える	日本公衆衛生学会 第83回総会 (招待あり)	2024. 10
10. 学会企画シンポジウム「生命倫理学と障害者差別の解消:配慮と対話の交錯」 大学における障害者支援の課題と今後の展開:障害のある教員の立場から考えるD&I	日本生命倫理学会 第36回年次大会 (招待あり)	2024. 11